

BCAO関西支部 第41回支部勉強会議事録

1. 概要

(1)日時: 2010年3月17日(水)18:00~20:30

(2)場所: 大阪ガス 1北A-1会議室

(3)座 長: 西濱(西濱防災ネット技術事務所)

(4)書 記: 小川(アイアイジェイテクノロジー)

(5)出席者: 20名(順不同・敬称略) 伊藤(TeleContinuity)、上田(情報システム監査)、佐原(鈴与)、小川(アイアイジェイテクノロジー)、山口(アイアイジェイテクノロジー)、柳父(大阪ガス)、日下(住友電工)、萩原(大林組)、速水(大阪地下街)、福島(清水建設)、藤村(竹中工務店)、杉原(大阪市)、川口(船井電機)、加瀬(大阪科学技術センター)、大西(神戸大学)、前田(富士火災)、高橋(JSOL)、西濱(西濱防災ネット技術事務所)、細坪(BCAO 事務局長)、平吾(BCAO 事務局次長)

(6)テーマ:「BCAO と地域・企業との連携のあり方(企業地域防災を通じて)」

- ・ 企業地域防災に絡む各機関の役割・ニーズは何か?
- ・ 企業は地域とどう連携すべきか?
- ・ BCAA 関西支部は何をすべきか、貢献できることは何か?
- 杉原氏より大阪市の取り組みについて紹介
 - 防災マップの作成(地域主導で実施:町内会等)
 - 地域防災に企業が貢献してくれる内容を防災マップに反映
 - 生野区の例では零細企業がBCに目覚めて勉強会、講習会に発展
 - 地域防災を通して(零細)企業がどのように事業を継続していくのか?を考えていく機会としている
 - 他の地域は?→西淀川で実施していて間もなく公開される
 - 地域の中学も戦力化している
 - 最初は打てども響かない地域もあるが、生野のような成功事例を紹介していくことで徐々に増やしていくアプローチをとっていく。
- 萩原氏より大阪科学技術センターでの危機管理対策セミナーの紹介
 - 都心でなければ事業を継続できない中小企業にとって被災時の代替拠点の問題がある
 - 主に既存施設を有効活用して「中小企業のための事業継続支援センター」を作ってはどうか?という提案
 - 地域活動の中で大学とうまく連携できないか模索
 - 今後この事業モデルは経済団体の商工会議所が主体的に運営を引き受けていければと考えている
 - どういう企業を対象としているのか?→業種・業態に関わらず、中小企業のオフィスなら対象になると考えている。
- 西濱氏より伊丹市での対応を通じた地域防災に対する私見の発表
 - 行政:危機管理室を設立。H21年度は新型インフルエンザ対応で忙しかった
 - 災害サポート登録制度:地域企業に人的支援、物資などの支援をしてもらえるところを登録。
校区ごとの登録を目指す
 - 自治会や自主防災組織に学習機会を支援する「出前講座」があるが、利用者は少ない
 - 消防署:自治会や自主防災の活動を支援

- 商工会議所:BCP 講座を実施
- H22 年 5 月 11 日に防災講演会を実施
- FM 電波を利用して防災情報を流す仕組みはできていて(エフエムいたみ)、市内の企業が伊丹市に対し計500台のFMラジオを寄贈し、市は市内の要援護者に配付している。
- フリーディスカッション
 - 加瀬氏より:避難している住民がいる段階で操業再開をした場合の風評被害はどうしたらいいのか?という悩みがある。
 - 災害が起きる前から地域に対して企業が貢献しておくことで、復旧時に事業再開を住民の方々が喜んで送り出してくれるようにしておくことが重要ではないだろうか。
 - 西濱氏より:企業と地域とのつながりのとっかかりは、どうしたらいいのか?
 - 杉原氏より:大小問わず、町会長に事業体が災害時に何かお手伝いできないか?ということを探ねるところから始めるといいだろう。
 - 上田氏より:地域と普段から信頼関係を持つことが大事で、そのベースがあった上で事業継続を考えていく必要がある。
 - 杉原氏より:普段から地域とのそういう信頼関係があれば、先程の加瀬氏が担当している企業でも住民は是非早く復旧してくださいという感情になると思う。
- BCAA 関西支部は地域との連携や企業および企業間連携に対して何ができるだろうか?の意見交換
 - BCAA 関西支部の目標は何なのか?ということを明確にしなければいけない。
 - BCAA として対外的に出ていくものは本部の了解がほしい。
 - 有志で何か活動をする分には問題はない。
 - 時間の問題もあるので、次回以降範囲を絞って議論を続けていくこととする。

以上